

1. 外部評価結果報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2970200388
法人名	有限会社 サン企画コーポレーション
事業所名	グループホーム ゆかりの里苑
所在地	奈良県大和高田市松塚850-3 (電話)0745-52-2942

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク
所在地	奈良市内侍原町8番地 ソメカワビル202号
訪問調査日	平成20年9月29日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 7 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	13 人
職員数	10 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	1,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1166 円		

(4) 利用者の概要(9月 18日現在)

利用者人数	11 名	男性 2 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	名
要介護3	3 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 85 歳	最低 60 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ハートランドしぎさん、土庫病院、日の出診療所
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、駅から近い古い集落の一角にある。鉄筋2階建てで2ユニットであるが、利用定員を13名とし、居室や共有空間が広くゆったり取られている。食事は全て手作りで、テーブルを囲んで職員も含め全員で同じものを食べ、とても家庭的で暖かな雰囲気がある。「人間の尊厳と家庭的で安らぎのある生活を大切に」という管理者の思いが活かされている。開所して5年が経ち、運営推進会議も開催され、地域の理解もさらに深まっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①運営理念については、開設当初のままであるが、地域密着型サービスとしての理念を創り上げて欲しい。②運営推進会議についての取組みはスタートし、地域との相互理解が深まっている。③家族等への報告及び意見の反映については、写真入の「ゆかりの里だより」が発行され、また「ビデオレター」も検討されている。苦情受付窓口の電話番号の記載が望まれる。④終末期のケアについて話し合い、その指針を文章化することが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果はミーティング時に職員に報告されているが、自己評価についても評価の意義を理解し、職員全員で点検し、話し合っ具体的サービスの改善に活かしてほしい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は過去2回開催されており、地域の総代、民生委員や老人会の代表、ボランティアや家族代表などが参加。内容は、ホームの見学や現状報告、意見交換などである。地域からは災害時の支援、ホームからは地域の介護相談の受け入れの提案があり、相互理解が深まっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会に訪れる家族が多いので、そのときに日ごろの様子を報告し、家族の思いを聞いている。イベント開催前に、「ゆかりの里だより」を発行し、ホームの様子を写真入で伝えている。誕生日には、本人の似顔絵をプレゼント、家族にも渡すようにしている。「ゆかりの里だより」に相談窓口の電話番号も載せている。契約書に苦情受付窓口の機関名が書かれてあるが、電話番号が記載されていない。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設して5年ほど経ち、徐々に地域の理解度も増している。そして自治会にも加入して地元のお祭の見学や月一回の公民館のふれあいサロンにも参加している。また、地域の保育園と運動会を催している。さらに、近所の農家の人から季節の野菜を頂くこともある。</p>

2. 外部評価結果報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の運営理念が額に入れられ事務所の壁に掲示してあるが、一般的で地域密着型サービスとしての独自の理念となっていないように思われる。	○	情報提供票の運営の方針には、「住みなれた地域で最後迄自分らしく過ごしていただく様介護致します」と書かれている。このような思いを、理念の中にも取り入れることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「人間の尊厳と家庭的で安らぎのある生活を大切にす」という管理者の思いは、会議のときだけでなく、日々共に働きながら具体的に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は古い集落の中にあるが、徐々に理解が深まり、自治会にも加入して地元のお祭や公民館のふれあいサロンにも参加している。また、ボランティアや保育園児の訪問、さらに近所の農家の人から季節の野菜を頂くこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は、ミーティングの時に報告し、改善に向けて前向きに取り組んでいる。自己評価は、管理者が考えて回答している。	○	外部評価の結果だけでなく、自己評価についても評価の意義を理解し、職員全員で点検し、話し合っ具体的サービスの改善に活かすことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2回開催されており、地域の総代、民生委員や老人会の代表、ボランティアや家族代表などが参加。内容は、事業所の見学や現状報告、地域からの感想などで、徐々に理解が深まりつつある。また、地域住民が抱える介護の問題などを気軽に相談してもらおうと伝えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困ったこと、分からないことは気軽に市役所に相談に行っている。担当者からきめ細やかな助言を頂いて、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に訪れる家族が多いので、そのときに日ごろの様子を日報をもとに細かく報告している。個々のお金は管理せず、必要になったものを月1回領収書を添えて送っている。イベント開催前に、「ゆかりの里だより」を発行している。誕生日に本人の似顔絵をプレゼント、家族にも渡すようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に、家族等の思いや意見を聞いている。「ゆかりの里だより」に相談窓口の電話番号も載せている。契約書に苦情受付窓口の機関名が書かれてあるが、電話番号がない。	○	契約書か重要項目説明書に苦情受付窓口の機関名と共に電話番号を具体的に記載することが望ましい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経験豊かな介護者を採用し、比較的定着率も良い。ユニット間の人員移動は極力避けている。離職される場合は、利用者にはダメージのないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は、職員が見やすい事務所に置いてある。参加費も補助している。参加したときは、ミーティングで内容を報告している。できれば、計画的な研修も望まれる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の7つのグループホームで、定期的に相互訪問や勉強会、情報交換などを行っている。他のホームの活動を知ることができて、とても有意義である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、家族や本人に見学をしてもらい、場合によっては体験入所をしてもらって、不安感を少なくし、少しずつ馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ADLは年々低下してきているが、掃除や洗濯物のしわ伸ばしや片付け、食材の下準備などできるところを手伝ってもらっている。認知症はあるが、若い頃に得た知識は健在で、教えてもらうこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のフェイスシートだけでなく、本人の「できること」「できないこと」「したいこと」などを具体的に調べ、本人や家族の意向の把握に努めている。また、生活歴や食習慣の把握にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	具体的で決め細やかなアセスメントが行われている。ケア会議を開いて職員の意見を聞き、本人や家族の意向を考慮して介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回、変化があるときは随時介護計画を見直している。介護計画を見直すときは、本人や家族に説明し、署名捺印を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎週水曜日に、デイケアサービスに参加している。ここでは、認知症専門医による診察も行われている。また、家族が行けないときに、病院への通院支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ユニットごとに隔週、かかりつけ医の往診があり、医療的な相談にもものってもらっている。また、24時間の対応もしてくれる。歯科医の往診もある。他の医療機関とも連携できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	悪くなって病院に入院してなくなれるケースが多いが、ホームとしてはターミナルケアを目指している。ただ、契約書や重要事項説明書にターミナルケアの項目がない。	○	今後グループホームでは、ターミナルケアは避けて通れない問題である。できることとできないことを職員で話し合っ、ターミナルケアの指針や契約書をつくられることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋に入るときは、本人に声かけするようにしている。トイレやお風呂介助のときも、プライバシーに気をつけている。また、職員の雇用契約書の中に、守秘義務を盛り込んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調やペースに合わせて、起床や食事の時間を配慮している。家庭的な雰囲気、新聞を読んだりテレビを見たり、レクリエーションを楽しんだりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューから食材選び、料理まですべて職員が行って家庭的な料理が出来上がっている。そして、同じものをテーブルを囲んで、職員も含めみんなで一緒に食べるようにしている。とても家庭的な雰囲気がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回、午後に入浴している。暑いときはシャワーを併用している。入り口に「ゆ」ののれんをかけたリ、好きな音楽をかけたりしている。できれば、夜間入浴ができないかも検討してほしい。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	認知症はあっても、昔の知識は健在で、ことわざや漢字、計算など知的なレクリエーションも行われている。新聞を読んだり、ピアノをひいたりするのも楽しみの一つになっている。おやつを作ったり、セーターのほころびを直したりをすることもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLが低下してきているため、以前ほど多くの方が散歩に出なくなっている。天気の良いときは、玄関前で体操やレクをすることがある。週に1回、全員デイケアサービスに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関には鍵はかけられていない。玄関を入ったところには、手すり代わりに柵が設けられているが、誰でも開けられるようになっている。玄関の扉には開けると音が鳴るベルがつけられている。2階の階段のところには、安全上カギがつけられているが、降りたいときは職員が付き添って降りるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の連絡先が、事務所の壁に貼られている。11月に防災についての消防署の研修を予定している。スプリンクラーも設置予定である。また、運営推進会議の場で地元から、災害時にはできる限りの協力をすると申し出があった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝は、野菜たっぷりの雑炊で、食物繊維と共に水分確保をしている。1日2回牛乳を飲むようにしている。飲みやすいように珈琲牛乳にしている。また、食事や水分の摂取量は、個人ファイルに分かりやすく記載している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1・2階とも居間兼食堂は、とても広くゆったりとしていて、各フロア共に2ユニット合同でイベントを開催することができる。テレビやピアノ、ソファなどがあり、くつろぐことができる。廊下も広く手すりがあって回廊式になっており、一周するだけでよい運動になる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は比較的広く、持ち込みの家具等は特に制限はないものの、全般的に物品が少なくスッキリとしている。使い慣れた筆筒やイス、お気に入りのカーテンなどがあつた。もう少し個性的な居室づくりの工夫があつてもよいと思われる。		